議事録兼報告書

会議名称	令和6年度 第1回伊那市行政改革審議会
日時	令和6年8月6日（火） 10:00～11:15
場所	庁議室
議題	(1) 令和5年度 行政評価（外部評価）への対応について (2) 令和5年度 行政改革大綱の取組結果について (3) 令和6年度 行政評価（外部評価）について (4) その他
欠席者	板山 ひとし委員
議事内容	
<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 伊藤副市長</p> <p>3 委員委嘱</p> <p>4 審議会の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により事務局説明 ・質疑討論 <p>なし</p> <p>5 正副会長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立候補、推薦なし。次のとおり事務局案を提出し、承認された。 <p>会 長 松島 憲一 委員</p> <p>副会長 赤羽 智恵美 委員</p> <p>6 協議事項 進行 松島会長</p> <p>(1) 令和5年度 行政評価（外部評価）への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により担当課並びに事務局説明 ・質疑討論 <p>■高遠スポーツ公園プール</p> <p>(委 員) 市のホームページの開場予定表では火曜日が閉場で×になっていたが、どのような状況か。</p> <p>(担当課) 休日夜間営業を廃止する代わりに火曜日の営業をするという検討だったが、段階的に進めていく中で、今年度の状況を見ながら来年度火曜日の営業をするか判断する。</p> <p>(会 長) 利用状況はどういうところが決め手になるのか。</p> <p>(担当課) 月、水など平日のほかの日の利用状況による。</p> <p>■B & G海洋センター運営</p>	

(委員) 自然に触れる機会を若者や地域の人に与えるというのは、価値のあること、意味のあることだと思う。私が属している会社では、伊那市のアソビナという団体を使って立ち漕ぎのボートSUPを、社員教育、チームビルディングに使うことを昨年からは始めている。

この応用で、今の夏の時期に、大学生のインターンシップの5日間のプログラム最終日に学生にSUPを体験させて、この伊那の環境、伊那谷の環境に触れて帰ってもらっているが、非常に好評で、また伊那に来たい、伊那谷に来たいという声が上がっている。

この価値自体にもう少し付加価値をつけて取り組みをすれば、伊那市の宣伝になったり地域の方がこの地域に誇りを持ったりするのではないかと思う。あと、高遠の青少年自然の家も、よく私どもの方に「なかなかお客さんが来なくて」と話に来られるが、高遠湖とうまくリンクさせてコンテンツの一つにすることができれば、伊那市にとってもかなりプラスの要素になるのではないかと個人的には思っている。その辺り、色々な価値創出ということは市の方で考えているか。

(担当課) まずはどういった施設かを色んな方に知っていただくというところが足りていないのでその辺りの見直しをして、伊那の自然を知っていただく、体を動かすことの楽しさを知っていただく、理解いただく形に繋がればと思う。

いずれにしてもここ3年間、施設が開場できない状況になっており、休業明けにお客さんを戻す、今まで以上に利用していただくための工夫をしなければいけないと考えている。委託の検討も含めて今年度後半、力を入れていきたい。

(会長) 確か昨年のお話だと、インストラクターの高齢化や装備の陳腐化、コロナで合宿などが無くなってとか色々重なってということだったと記憶している。青少年自然の家もそうだが、こういう施設は継続的に来ていた合宿や子供会などが途切れてしまって、もう次やらなくなってしまっているという感じを受ける。非常に条件が悪いところだが、委員がおっしゃるように、場所もいいのでぜひ何らかの形で続けていただければ。委員に相談したら何かいい話が出るかも知れない。

(委員) 我々は、なくそうとしていることを逆に価値だと思って新たに始めて、アソビナさんと立ち上げて数ヶ月でプログラムにしたので、その気があればそんなに時間かからないで検討できるのではないか。ぜひ検討していただければ。もしよろしければ、御覧に来てください。

■外部評価について

(委員) 事業の選定方法は、意見は委員からなのか、市民から募った意見なのか。

(事務局) 選定方法は毎年少しずつ変えているが、昨年度については職員で構成する行財政改革推進委員会から提案されたものを候補とした。

意見については、審議会委員の皆様からいただいたものである。

■学習機の天板張替え

(担当課が説明した、地域おこし協力隊員が東春近小学校で「たき火の日」という事業を会議前日に実施したことについて)

(委員) 地域おこし協力隊の方がたき火事業を実施したとのことだが、市は何も関わらず、こちらに丸投げして終わりにしたということか。

(担当課) 昨年の評価に「学校林の活用」があった。学校教育課の地域おこし協力隊で「未来の教育コーディネーター」が1人いて、「森と学び」というミッションもある。昨日はその地域おこし協力隊員、地域の「老松場の森の管理委員会」や東春近にできた「たき火の会」などが中心になって、小学生、保育園の子どもたちと、たき火の火のつけ方などを実施した。そうした森と関わるということ、東春近でやったような活動が他の地域にも波及して、学校林の活用などが子どもたちにどんどん広がっていくと良いと考えている。市が全く関わっていないということはない。

(委員) 小さい頃の楽しかった記憶はとても大事だと思う。長野県には木、山がいっぱいある。そうした地域を活かして、小学校の時に皆であれやったよねとか、地域の子たちと皆でああいうことやったよねという記憶が大人になってもあって、自分が子どもにやらせたいとか、また（伊那に）帰ってああいうことをやろうよと（いうことにつながる）。

縦割りではなく、上手く横につながっていくことも考えていただきたい。

(2) 令和5年度 行政改革大綱の取組結果について

- ・資料により事務局説明
- ・質疑討論
なし

(3) 令和6年度 行政評価（外部評価）について

- ・資料により事務局説明
- ・質疑討論
なし

(4) その他

なし

7 その他

(事務局) 外部評価対象事業の選定について、本日お配りしたハガキでお知らせいただきたい。

8 閉会

以 上